

【福山】モノづくり推進会議は21日、広島県福山市で「地域活性化リレーションシップում in FUKUYAMA」を開いた。昔の遊びの技を子どもたちが競い合う「遊びのオリンピック2008 WAZA-ONE GP」との併催で、国立科学博物館理工学研究部の鈴木一義研究主幹と、WAZA-ONE GP実行委員会委員長である戸田拓夫キャステム社長の講演などを実施した。

(1面参照)

モノづくり推進会議

広島・福山でシンポ

日本製部材の優位性強調



鈴木氏は「日本のモノづくり その風土・文化」を演題に、将来日本のモノづくりに、その風土・文化を、上使われたら、シャパンインサイド」として知らせるべきだ」とその優位性を強調

講演する鈴木国立科学博物館研究主幹

……くりにあるべきかを提言。日本の高度部材が世界シェアトップにあるとして「日本の部材が製品で4割以上の折り紙ヒョッキや遊びのオリンピックについて、子どもが遊ぶ力や

調した。また、日本のモノづくりは「中国や西洋の技術を取り入れながらも日本とは何かを常に考えてきた」として世界でも例のない日本モノづくりの特徴を説明した。

戸田氏は「遊びと技と工夫がものづくりの原点」を演題に、戸田氏が力を入れている折り紙ヒョッキや遊びのオリンピックについて、子どもが遊ぶ力や

発想力が低下しているとして「日本は人材が資源。資源が危うい状況にあるので」と懸念を示した。また、今回初めて開催した遊びのオリンピックを「4年に一度の世界大会にした」と意欲をみせた。

このほか、大学生が北海道・東北地区の中小企業の現場を訪問する中で、彼らに変化していく姿を紹介したドキュメンタリー映画を上映した。地域活性化リレーションシップは、地域からモノづくりの重要性を情報発信する活動の一環。